

令和2年度 横川西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

生きる力を育む教育活動を通して、心身共に健康で、自ら学ぶ意欲をもち、心豊かな児童を育成する。

児童目標【げんきで かしく やさしい子】

◇健康で がんばる子ども ◇よく考え すすんで学ぶ子ども ◇きまりを守り 思いやりのある子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

自信をもち、一人一人が輝ける学校

子どもたち一人一人が、学校で学ぶ楽しさ（学習・生活）を実感し、自他を大切に互いが成長し合える学級・学校づくりを目指す。

【目指す学校像】

○子どもたち一人一人に **学ぶ楽しさがある学校**

○子どもたち一人一人が自他を大切に **心の成長を育む学校**

○全職員が明るく元気に **励み合う学校**

○家庭や地域に **信頼される学校**

【目指す教職員像】

○教育的愛情と真の優しさ、厳しさをもって **子どもに寄り添い行動する教職員**

○同僚性と協働性をもち、**学び合い向上する教職員**

○保護者や地域と **心を繋ぐ教職員**

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) ○一人一人の「わかる、できる、楽しい」学びの実感がもてる授業づくりに努める。

(2) 規範意識や人を思いやる心を育てる、一人一人の心づくりに努める。

(3) 自己の健康に関心をもち（自己管理能力を育成し）、自ら進んで体力づくりに励み、逞しく生きる人づくりに努める。

(4) ○全教職員の共通理解のもと、一人一人を大切に児童指導の充実に努める。

(5) ○家庭・地域と協働して子どもたちを育てる信頼される学校づくりに努める。

(6) 教職員が同僚性と協働性をもち、各々のよさが発揮できる組織づくりに努める。

(7) 教職員が、心身の健康管理に留意するとともに、勤務時間を意識した働き方を推進する。

【陽南地域学校園教育ビジョン】地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの自主的な活動を通して～

4 教育課程編成の方針

(1) 本年度の学校教育目標、経営方針の示すところにより、学校の実情、児童の実態を考慮し、特色ある学校づくりが実現できるよう編成する。

(2) TTや習熟度別学習、教科担任制を取り入れ、「個に応じた指導」「楽しくわかる授業」を展開し、基礎的・基本的な事項の確実な定着が図れる教育課程編成に努める。

(3) 地域の自然、文化、伝統などの教育資源を有効に生かす教育活動を編成する。

(4) 児童一人一人の自己肯定感が高められるよう、学校教育活動全体を通し育成する。

(5) 前年度の未履修の学習内容について、習得状況の確認や補充の指導等が図れる教育課程編成をする。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】・互い（児童・教職員）が成長し合い、一人一人が輝ける学校づくりの推進。

○児童の心に寄り添い、一人一人の心が成長する学校づくりの推進。

○真の優しさや厳しさを持ち、児童・保護者・地域を愛し、共に行動する学校を目指す。

【学習指導】・学ぶ楽しさを実感し、主体的に学びに向かう児童の育成を目指す。

・基礎・基本の確実な習得と活用を目指す授業づくりの推進

○「課題を理解する場、見方・考え方を働かせ課題に取り組む場、対話し学びを伝え高め合う場、振り返る場」の組み立てや発問を工夫し、新学習指導要領の趣旨を具現化させる授業実践。

<p>【児童生徒指導】 ・きまりを守ることの大切さや人を思いやる心の大切さを理解することができ、互いに他を認め合える児童の育成を目指す。</p> <p>○児童の特性の理解と対応，いじめの早期発見・早期解決，不登校児童の組織的・計画的支援，自己肯定感を高める工夫</p> <p>【健康(体力・保健・食・安全)】 ・児童一人一人が，自己の健康・体力に関心を持ち，自己管理能力を育てる保健学習・教科体育の実践を図る。</p>

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	<p>A 1 児童は，進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「児童は，授業中，話をしっかりと聞いたり，発表したりするなど，進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学習課題の提示の仕方や教材を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味・関心をもって取り組めるよう学習活動の工夫・改善を推進する。 <p>②基礎・基本の確実な定着を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少数指導・習熟度別学習等の工夫をする。 ・学習形態を工夫し，互いの意見を伝え合う活動を積極的に取り入れる。 ・発表や話し合いの仕方，ノートの活用法等を系統的・発展的に指導していく。 	B	<p>【達成状況】 児童 93.9% 教職員 97.1% 保護者 85.9%</p> <p>【次年度の方針】 児童，教職員，保護者の肯定的回答が数値指標を上回った。今年度は，4年生から算数で習熟度学習を取り入れたことがよかった。ノートの活用について系統的・発展的に指導できるように全職員で共通理解を図り，全校体制で取り組む。</p>
	<p>A 2 児童は，思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童・保護者 「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①道徳教育の充実を図る。</p> <p>②教育相談やQ-Uを実施して，児童の考えや悩みを適切に捉え指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童からの悩み相談に対しては，学級担任，学年，学校全体で支援にあたる。 <p>③児童が明るく生き生きと活動に取り組めるよう，学校行事や児童会活動，縦割り班活動などの実施方法を工夫するとともに，認め合い活動を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 児童 85.6% 保護者 86.0%</p> <p>【次年度の方針】 児童，保護者共に肯定的回答は85%を超えていることから児童の悩みに寄り添うための教育相談やQ-Uの活用を継続し，③の取り組みにおいては，認め合える環境作りとして構成的エンカウンターやSSTを学級活動等の授業に取り入れていく。</p>
	<p>A 3 児童は，きまりやマナーを守って，生活をしている。</p> <p>【数値指標】 「児童はきまりやマナーを守って生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①基本的生活習慣と規範意識を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「横西小よい子の一日」の周知徹底を図り，守れていない事柄については，学校全体で共通理解を図り，同一步調での指導を行う。 ・重点化した「横西っ子5つのきまり」を，重点週間などを設け，学校全体で共通理解のもと，指導・支援していく。 ・道徳科や学級活動等において，人権の尊重・規範意識の向上に関する授業を実践する中で，児童の意識を高めていく。 	B	<p>【達成状況】 児童 79.7%</p> <p>【次年度の方針】 きまりの共通理解と，同一步調での指導にあたることで，昨年度よりも肯定的回答率が増加したことから，少なからず効果はあった。次年度もきまりへの共通理解を深め，どの教員もきまりに対して同じ理解のもと指導ができるよう努める。「5つのきまり」に対しては，強化週間などを設けることで児童への意識付けを強化していく。</p>

<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・地域住民の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童の創意を生かしたあいさつ運動の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全児童があいさつ運動に関わることができるよう活動内容を工夫し、取組を強化する。 ・家庭・地域協議会と連携した地域ぐるみの「あいさつ運動」を実施する。 ・登校班の班長会議を行い、あいさつの良さを考えさせ、地域の方へのあいさつの重要性を理解させる。 ・「横西っ子5つのきまり」である「いつでもあいさつ」を根気強く声掛けを行い、習慣化を図る。また、教職員が率先遂行する。 	<p>【達成状況】 児童 90.3% 地域住民 100% 保護者 79.8%</p> <p>【次年度の方針】 今年度は、「あいさつ運動」ができなかったにもかかわらず肯定的回答率が増加したことからあいさつへの意識は向上していると考えられる。次年度は、感染症対策をしながら全児童が関われる形のあいさつ運動を考える。各クラスであいさつの合い言葉を考える活動や「5つのきまり」の呼び掛けを行うなど意識付けを次年度も継続していく。</p>
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「私（児童）は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員は認め励ます指導に努める。</p> <p>②各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設け、目標の達成に向けて努力する姿勢を称賛する。</p> <p>③道徳科の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践への意欲を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童 87.1% 保護者 69.2%</p> <p>【次年度の方針】 児童の肯定的回答は数値指標を上回り、保護者は大きく下回った。各教科の授業や各種検定等において、個々に目標をもって取り組むことで達成感を味わうことができたことがこの結果につながったと思われる。これらの取組は次年度も継続していく。</p> <p>また、保護者にもこれらの取組について、学年だより等を通して周知していく。</p>
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①<u>児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・うがい、手洗い等の励行やハンカチ、ティッシュの携行、教室の換気をする。 ②学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、安全に関する指導を計画的に実施する。 ・室内での過ごし方、廊下の歩行や校庭での遊び方など、「横西小よい子の一日」を活用して指導していく。 ・交通事故予防、特に自転車の乗り方について、保護者への協力を依頼する。 ④家庭と連携した取組となるよう、便り等により情報を共有し、取組の充実を図る。 	<p>【達成状況】 教職員 91.4% 保護者 86.7%</p> <p>【次年度の方針】 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行っていく。給食時においては、巡回指導等を通して新たな生活様式に合わせた安全な食習慣の育成を図っていく。</p> <p>また、児童が日常生活および災害発生時に、適切な意思決定と行動選択できる力を身に付けることができるよう安全に関する取組の充実を図る。</p> <p>生活習慣の改善には保護者の意識や生活スタイルの改善も必要であるため、家庭との情報共有など連携して指導を行う。</p>

<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 「私（児童）は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。</p> <p>・学級活動等で使うキャリアパスポートを活用することで勤労観や職業観を学年の発達段階に応じて育めるようにする。</p> <p>②家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】 児童 87.1% 保護者 69.2%</p> <p>【次年度の方針】 児童の肯定的回答は数値指標を上回った。具体的な目標をもち、意欲的に取り組めるような活動を継続して進めていく。また、キャリアパスポートを活用するなどキャリア教育を充実させ、夢や目標の実現に向けての取組を計画的に進めていくようにする。</p> <p>保護者の肯定的回答は大きく下回った。学校での取組を保護者に積極的に伝えたり、家庭と連携して体験的活動を取り入れたりしていく。</p>
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①外国語や外国語活動を通じて、外国の言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>②外国語や外国語活動に関する情報収集や授業を相互に見合う機会を充実させ指導力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童 88.9% 教職員 82.9%</p> <p>【次年度の方針】 児童、教職員ともに数値指標を下回ったものの、前年度よりもポイントは上がった。その時間のめあてをしっかりと捉え、児童が達成感をもって授業に取り組めるようにすることで、自分が英語を喋れたという自己肯定感を育む。そのために、児童が話したい・やってみたいと思える場を設定する。</p>
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 「私（児童）は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①生活科、社会科、総合的な学習の時間や「宇都宮学」の授業、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。</p> <p>②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 児童 74.8% 保護者 51.2%</p> <p>【次年度の方針】 本年度から、高学年の総合的な学習の時間、国語、生活科、社会科、道徳において宇都宮学を実施。計画的に実施することで、児童の興味関心を高めたい。</p>
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①パソコン・タブレット等の活用により、主体的・対話的で深い学びを促進し、児童の情報活用能力の育成を図る。</p> <p>②学校図書館の学習・情報センターとしての機能の充実を図る。</p> <p>③ICTや図書資料を活用した学習に関して、家庭への情報提供を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童 82.9% 教職員 88.6%</p> <p>【次年度の方針】 児童、教職員ともに数値指標を下回ったものの、前年度よりもポイントは上がった。次年度は、小学校司書が積極的に授業に関わり、図書資料を有効活用できる取組を増やしていく。また、1人1台のタブレットが導入されるので、十分に活用していきたい。</p>
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①高齢者とふれ合う機会の充実を図る。</p> <p>・生活科や総合的な学習の時間などにおいて、高齢者を講師として招いたり高齢者にインタビューする活動を設定したりするなどして、高齢者の知恵や人生経験に学ぶ機会を設定する。</p> <p>・道徳科の授業を通して高齢者や障がい者に対して理解を深められるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 児童 85.6% 保護者 86.0%</p> <p>【次年度の方針】 今年度は感染症予防対策により高齢者と関わる行事はすべて中止となった。しかし、道徳の授業の中で高齢者や障がい者に対しての理解を深める機会を設けた。取組としては今年度予定していたものは継続し、感染症対策を考えながら実施の方法は検討する。</p>

	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心を持っている。」 ⇒児童の肯定的回答 85% 「児童は、『持続可能な社会』について、関心を持っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%</p>	<p>①各教科等において、学習指導要領等の趣旨を踏まえ、「持続可能な社会」を見据えた授業の充実を図る。 ・6年総合「子ども会議」 ・5年総合「エソジマモチ」</p> <p>②各教科等の授業と学校行事や体験活動、地域社会との連携など、特色のある教育活動を展開する中で、「持続可能な社会」と関連付けられる部分を取り上げていく。 ・「きみの横西」 ・児童会活動「牛乳パック・エコキャップ回収」</p>	<p>【達成状況】 児童 83.3% 教職員 45.7%</p> <p>【次年度の方針】 全体的にSDGs についての理解が進んでいない。しかし、教科書が新しくなったこともあり各教科で扱う単元がいくつかあるので、その機会を活用し「持続可能な社会」の実現に向けての取組や考え方について児童と共に理解を深める。 また、本校で取り組んでいる牛乳パックの回収やエコキャップ回収活動と関連させて全校での取組が関わっていることに意識を向けることができるようにさせる。</p>
	<p>B1 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 「私は、宿題や自主学習を、目標とする時間以上にやっている。」 「児童は、宿題(自主学習)を含めた家庭学習を目標時間以上にやっている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①家庭学習の習慣が身に付くよう個々に指導を進めていく。 ・「陽南地域家庭学習のヒント集」に基づき、発達段階にあった家庭学習の時間の確保や適切な量の課題を出すようにし、基本的な学習態度の定着に努める。 ・学習をしてきた内容に対して、認め励まし、意欲が持続するような手立てを工夫する。 ・学年だより等により、家庭学習に関する保護者への啓発を行い、協力を依頼する。</p>	<p>【達成状況】 児童 70.8%</p> <p>【次年度の方針】 肯定的回答が数値目標を下回った。家庭学習強化週間では、児童・保護者も意識して取り組むことができ、家庭学習を見直すきっかけにもなるため、次年度は年5回実施する。 また、習い事によって、学年+10分の目標時間が達成できない児童もいる。年度初めに曜日ごとに学習時間や目標を設定し、こまめに見直す機会を設定する。学年だより等により、家庭学習に関する保護者への啓発を行い、協力を依頼する。</p>
<p>目指す学校の</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①校内支援委員会等で具体的な指導目標や指導の手立てを設定し、教職員の共通理解のもと指導に当たる。</p> <p>②かがやきルームにおける指導の充実を図る。 ・担任とかがやきルーム指導員が指導記録を交換し連携強化の充実を図る。</p> <p>③特別支援学級における指導の充実を図る。 ・児童の実態を的確に把握し、一人一人障害特性に応じた指導を行う。 ・保護者や関係職員と丁寧に連絡を取り合いながら、交流及び共同学習を積極的に推進する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100%</p> <p>【次年度の方針】 校内支援委員会で具体的な指導目標や指導の手立てを設定し、全職員共通理解で指導に当たるようにする。なお、クラスにおける支援については、児童の実態把握や児童の特性に合った支援を強化していく。 また、かがやきルーム指導員と指導記録を交換し連携強化を継続して行う。 ③については継続する。</p>

<p>姿</p>	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「横西小いじめ防止基本方針」に基づき、全職員で指導に当たる。</p> <p>②日常の児童の言動に気を配り、小さいいじめも見逃さず、いじめは許されない行為であることを指導し、未然防止に努める。</p> <p>③いじめゼロ集会での取組について、児童会だよりで子どもたちから発信したり、いじめ標語を昇降口に掲示したりする。</p> <p>④学校のいじめの未然防止の取組について、保護者・地域に対し啓発を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童 98.7% 保護者 72.8% 地域住民 100%</p> <p>【次年度の方針】 児童の肯定的回答は 98%となったが、保護者の肯定的回答は 80%には届かなかった。各学年いじめゼロ標語を廊下に掲示したり、道徳の授業の中でいじめに関する指導を行ったりしたことが児童の意識には反映されていた。保護者へは、ホームページでいじめ防止指針を公開しているが、それだけではなく学年だよりを使い、いじめに対しての対応など目に見える形での取組の発信の機会を増やしていく。</p>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 「教職員は、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員の認め励ます指導に努め、児童の自己肯定感を高める。</p> <p>②児童の状況にあった支援策を検討する。</p> <p>・<u>児童の欠席状況等を把握し、ケース会議等で学校の支援の方針を話し合い、共通理解を図りながら、学校全体で組織的・計画的に支援を行う。</u></p> <p>・学校の支援方針について保護者の理解と協力を得ながら、同じ目標に向かって支援を行う。</p> <p>③別室登校支援の充実を図る。</p> <p>・児童の状態に応じた適切な支援がなされるよう、多様な場の設定や支援策がなされるように努める。</p>	<p>【達成状況】 児童 96.4% 保護者 86.2%</p> <p>【次年度の方針】 かがやきルームを活用した別室登校支援を積極的に行ったり、放課後の個別登校を支援したりするなど、次年度も多様な対応を生かすようにする。</p> <p>また、児童の欠席状況等を把握し、ケース会議等で学校の支援の方針を話し合い、共通理解を図りながら、学校全体で組織的・計画的に支援を行っていく。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①外国人児童の受け入れ態勢づくりに努める。</p> <p>・外国人児童の編入学における校内の受け入れ態勢を整える。</p> <p>・必要に応じ、保護者、日本語ボランティア、関係機関との連携体制を確認する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100%</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、外国人児童の受け入れ態勢を整備し、外国人児童の編入学における校内の受け入れをスムーズに行う。</p> <p>また、必要に応じて保護者、日本語ボランティア、関係機関との連携ができるようにする。</p>
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 「私は、今の学校が好きです。」 「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①適正な学校運営に努める。</p> <p>・学校評価を生かした保護者・地域と一体化した活気ある学校づくりの推進。</p> <p>・担任と一緒に学級集団で遊ぶ時間を設けるなど児童一人一人を大切に居がいのある学級づくり。</p> <p>・個々の児童の困り感に対し、より丁寧に対応できるよう、家庭との連携を図る。</p> <p>・あいさつ運動の推進。</p>	<p>【達成状況】 児童 89.2% 保護者 85.7% 地域住民 88.9%</p> <p>【次年度の方針】 日々学校で生活している教職員や児童の肯定的回答は昨年度よりも増加している。感染症予防対策で他者と関わるのが少なくなってしまうことや大きなあいさつができなくなってしまった中でも、児童とのふれあいの時間をしっかりと設けたことによるものだと考えられる。そのため、次年度も取組を継続していく。</p>

<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①学習指導の工夫・改善を図る。 ・明確なめあての提示、板書の工夫等指導方法の改善を図る。 ・思考力を育てるための書く活動を重視した授業づくりを行う。 ・TT指導や少人数指導、習熟度別学習等を効果的に実施する。 ・一人一授業を実施するとともに、授業力向上のため校内研修の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 児童 97.5%</p> <p>【次年度の方針】 児童の肯定的回答は大きく目標値を上回った。前年度よりも肯定的回答率が増加しているため、明確なめあての提示や少人数指導などの取組を、共通理解を図りながら継続して行っていく。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①学校図書館司書、学校栄養職員、かがやきルーム指導員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等と連携した取組を充実させる。 ②学校図書館司書や学校栄養士について、年間指導計画に位置付け活用の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 97.1%</p> <p>【次年度の方針】 多様な専門スタッフと連携し、児童への指導・支援の充実を図る。特に学校図書館司書、学校栄養職員の授業への参画を年計に位置付け、授業で活用する。かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携した取組をさらに充実できるようにする。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革の推進 ・管理職は教職員の毎月の時間外勤務の状況を正確に把握し、時間外勤務時間数に応じて、個別の面談や医師による健康相談を促す。 ・教職員は、自分にできることを常に意識して勤務するとともに、「何時まで」「どこまで」などの個人目標を設定して、勤務の効率化を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 80.0%</p> <p>【次年度の方針】 肯定的回答率が上向きつつあるので、勤務時間をさらに意識して、ポータルサイト等を活用し業務の効率化に取り組む。教職員は、自分にできることを常に意識して勤務するとともに、「何時まで」「どこまで」などの個人目標を設定して、長時間労働にならないように意識して勤める。</p>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「学校は小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①義務教育9年間を通じた系統的な指導を行う「小中一貫教育カリキュラム」を推進する。 ・カリキュラムの地域学校園化・自校化を進める。 ・<u>地域学校園で授業のきまりを設定するなどして学習の基盤を整える。</u> ・小中一貫の取組を学校だより等で紹介し、保護者・地域への周知を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 児童 69.0% 保護者 78.1% 地域住民 90.0%</p> <p>【次年度の方針】 本年度はコロナ対策により十分な活動ができなかった分児童の肯定的回答率は低かったが、それぞれの学校の取組について情報交換を行ってきた。これまで通り、陽南中との相互乗り入れ授業を始め、「あいさつ運動」など多くの活動において小中一貫教育を行い、取組を学校だより等で紹介し、保護者や地域への周知を図る。</p>

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 「私は、地域の企業の方々といっしょに活動することで学習が充実し、楽しい。」 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①<u>地域人材の活用や企業の専門性を生かした学習を推進する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下水道局、税務署、(株)SUBARUなど、専門分野の企業、地域の企業等と連携した授業を計画的に行う。 ・家庭・地域・企業等と連携した活動の広報活動を充実させる。 ・地域の「見守り隊」「自治体」「育成会」「老人クラブ」等との各団体との連携・協力を推進する。 	<p>【達成状況】 児童 88.7% 教職員 97.1%</p> <p>【次年度の方針】 地域の「見守り隊」「自治会」「育成会」等、各団体との連携・協力を推進してきたので、おおむね数値指標の達成に近づいたが、地域人材バンクを作成し、さらに企業等の活用を推進する。 児童がお世話になっている方や活動について啓発を図るとともに、活動の様子を掲示することで活動の見える化を図る。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①<u>地域人材の活用や企業の専門性を生かした学習を推進する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下水道局、税務署、(株)SUBARUなど、専門分野の企業、地域の企業等と連携した授業を計画的に行う。 ・家庭・地域・企業等と連携した活動の広報活動を充実させる。 ・地域の「見守り隊」「自治体」「育成会」「老人クラブ」等との各団体との連携・協力を推進する。 ・学校における取組をHPや学校だより等により、発信していく 	<p>【達成状況】 保護者 81.1% 地域住民 91.7%</p> <p>【次年度の方針】 地域の「見守り隊」「自治会」「育成会」等、各団体との連携・協力を推進してきたので、おおむね数値指標の達成に近づいたが、地域人材バンクを作成し、さらに企業等の活用を推進する。 児童がお世話になっている方や活動について啓発を図るとともに、活動の様子を掲示することで活動の見える化を図る。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員・保護者・地域住民 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<p>①<u>定期的な安全点検の実施により環境整備を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備・器具・用具等の定期的な安全点検を実施し、点検結果に基づいた維持管理や改善を図る。 	<p>【達成状況】 教職員 97.1% 保護者 85.4% 地域住民 100%</p> <p>【次年度の方針】 定期的な安全点検を実施し、危険箇所については、複数の目で確認をするなど、点検結果に基づいた維持管理や改善を図るようになる。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校図書館司書と連携し、学習に必要な図書を充実させる。</p> <p>②授業において、ICT機器を積極的に活用した授業展開を検討し、機器の活用の充実や整備に努める。</p> <p>③ICTや図書資料を活用した学習に関して、家庭への情報提供を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童 82.9% 保護者 58.4%</p> <p>【次年度の方針】 学校図書館司書と連携し、学習に必要な図書をさらに充実させ、活用場面で的確に活用できるようにする。授業において、ICT機器を積極的に活用した授業展開を検討し、機器の活用の充実や整備に努める。また、学年だより等で活動の様子を家庭に伝えるなど、取組を積極的に発信する。</p>

<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B2 児童は食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 「わたしは、食事のマナーや習慣をきちんと身に付けて食事をするができる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「児童は、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けている。」 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上 「児童は、食事のマナーや食習慣をきちんと身に付けている。」 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①給食指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なマナーを徹底して指導し、偏食指導、栄養指導、衛生指導の充実を図る。 ・児童の食に関する正しい知識、保護者の望ましい食習慣についての意識等に関して調査を行い、必要な指導事項を明確にし、望ましい食習慣の定着を図る。 ・学校での食育指導の内容について、各種たよりや学級懇談会を通して保護者に伝え、共通理解のもとで家庭と連携しながら指導していく。 	<p>【達成状況】 児童 86.7% 保護者 67.8% 地域住民 100%</p> <p>【次年度の方針】 児童・保護者とも数値目標を下回った。児童に対しては毎日の給食時に基本的なマナーを徹底して指導し、食育指導の充実を図る。また、児童の食に関する正しい知識と望ましい食習慣についての保護者の意識調査を行い、必要な指導事項を明確にし、望ましい食習慣の定着を図る。学校での食育指導の内容について、各種たよりや学級懇談会を通して保護者に伝え、共通理解のもとで家庭と連携しながら指導していく。</p>
------------------	--	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

今年度は、コロナウイルス感染症対策により、集団活動や話し合い活動、地域人材や地域教材の活用、小中学校連携による小中一貫教育の取組等において年度当初に予定していた活動が実施できないものが多く、また、地域と連携した学習・行事等の実施が難しい状況にあった。そのため、全体アンケートA21「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている」やA22・23「学校は、家庭・地域・企業等と連携協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」において、児童・保護者・地域住民・教職員のすべてにおいて肯定的回答が昨年度を下回った。また、各種行事においても、保護者や地域住民の学校参観を遠慮していただくことが多く、学校生活における児童の様子を直接見ていただくことが難しかったことから、保護者については、昨年度よりポイントを下げたアンケート項目がみられた。

しかし、全体的にみると、児童では18項目中12項目、保護者では17項目中10項目、地域住民では10項目中7項目、教職員では22項目中18項目において、昨年度と比較して肯定的回答が増えている。

また、数値指標を達成した項目が、児童17項目中7項目、保護者14項目中5項目、地域住民6項目中5項目、教職員10項目中6項目となり、全体の5割で目標を達成となった。

【学習について】

○A1「児童は進んで学習に取り組んでいる」において、児童・教職員の肯定的回答がどちらも90%以上となり、数値目標を上回った。またA18「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」の児童の肯定的回答は97.5%であった。基礎基本の定着を図る取組とともに、発表や話し合いなどで互いに自分の考えを伝えあう場を工夫する研究を進めてきていることの成果であると考える。

・家庭学習に関するB1「児童は、宿題（自主学習）を含めた家庭学習を目標以上やっている」では、目標値に達していない。保護者との連携を図った「家庭学習強化週間」の取組により児童の意識の向上がみられることから、次年度は家庭の協力も得ながら、回数を増やし取組を強化していきたい。

・A10・A25「児童はICT機器や図書等を学習に活用している」では、目標を下回っている。来年度から、一人1台のタブレットが導入される。タブレットを効果的に活用し授業が展開できるよう、教職員研修を実施するなどしていく。

【地域連携について】

○A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、より良い児童の育成に取り組んでいる」の項目については、児童・保護者・地域住民・教職員の肯定的回答が80%を上回ったものの、昨年度より減少し

ている。コロナ禍における連携・協力の方法について検討していくことが必要である。

【児童指導について】

・ A 4 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」では、児童の肯定的回答が90%を上回った。あいさつの大切さを全校生に対し朝会で伝えたり、日常生活においてあいさつを実践したりすることにより、校内においてあいさつをする児童が増えてきていると考える。今後もあいさつができるようにしていく。
○ A 1 5 「教職員は、不登校を生まないように、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている」においては、児童の肯定的回答が96.4%であり、学校におけるいじめの早期発見・早期解決、不登校児童の組織的対応、認め励ます指導の成果であると考え。今後も児童の欠席状況等を把握し、学校全体での組織的な取組を継続し、児童の自己肯定感を高め、いじめ・不登校の未然防止につなげていきたい。

【健康・安全について】

・ A 6 「児童は健康や安全に気を付けて生活している」では、肯定的回答が教職員・保護者ともに目標指標を上回っている。今年度は特に感染症予防対策において、生活における手洗いやマスクの着用、給食時の配膳・食事の仕方等、健康・安全に関する取組の習慣化がみられ、児童の健康・安全に対する意識が向上している。

7 学校関係者評価

今年度は、コロナへの対応により、学校教育活動に困難な状況がみられたと思うが、児童の健康・安全確保のために取り組んでいたと考える。

A 1 4 のアンケートでは、いじめに関する学校の取組について、児童の肯定的回答が98.7%であり学校が楽しく安心した場となっているからと思われる。今後も、いじめ対策に関する取組を継続するとともに、学校のいじめ対策について保護者の理解が得られるよう、積極的に情報発信をしていただきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

・ 今年度の取組を継続するとともに、保護者と連携を図り、学習・生活の向上を目指していく。特に、家庭学習に関しては、自主学習の充実を図る。
○小・中学校が連携した取組や地域と連携した活動については、十分に感染症予防対策を講じるとともに、内容を見直すなどして実施していく。
○地域学校園で連携したいじめ対策に関する取組を継続するとともに、学校における取組を学校だよりやHP等を通して発信していく。